

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業(SPH)

服飾デザイン科 テキスタイル開発に関する研修1

①繊維工場・テキスタイルマテリアルセンター見学

【日時】2月9日(火) 8:40~17:00

【目的】・地場産業である繊維産業の工場見学を通して、糸製造、染色、織り行程などの理解を深めるとともに、地元素材の良さを再発見し、それらを使用したオリジナルファッション開発への興味関心を高める。
・テキスタイル・マテリアルセンターでの見学および講義を通して全国の優れた開発素材を目で見て、手で触れることにより、新たな発想を呼び起こしオリジナルテキスタイルの考案に繋げる。

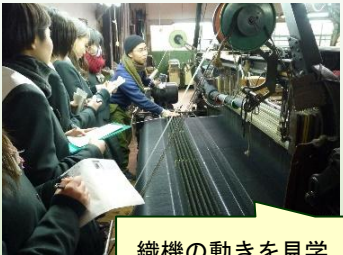
【研修先】葛利毛織株式会社、三星染整株式会社、テキスタイルマテリアルセンター

【対象】服飾デザイン科2年生

研修内容と成果

地元の繊維生産企業である葛利毛織工業株式会社では、綜統通し体験、手織りの風合いを保つ超低速織機による織物工程を見学し、素材の風合いを生かしたテキスタイルに注目したデザイナーが注文した布も見せていただきました。三星染整株式会社では、織物やニットに特殊な加工をする様子を見学しました。

マテリアルセンターでは、珍しい織物の数々に触れることができ、職人による講義では、糸の種類や織り方、デザイナーがテキスタイルをオーダーする際の手順なども学びました。生徒は、興味深々で聞き入り、熱心に記録していました。また、コレクション作品に使用した様々な布も購入できたため、それらの本物に触れながら今後のオリジナルテキスタイル開発に向けて研究を進めていきます。



織機の動きを見学



縮絨などの工程を見学



10万点以上の生地を見て触った



立体的な生地の説明

＜生徒の感想＞

- ・世界中から注文が入るプロの技を間近で見たり話を聞いたりすることができ、世界のファッションを身近に感じた。多くの職人に共通していたことは、“自分の腕に誇りをもち、手間をいとわずにこだわりをもって作品を作り上げる”ことだった。
- ・見たことのない生地がたくさんあったが、自分が新しい物を生み出すことはとても難しいので、新しいものを発想するときは、存在する布の発想を変える、違う方向から見ることも大事だと思った。そのためには、現在ある生地をしっかりと把握していないといけないと思った。

②文化服装学園との遠隔授業

【日時】2月12日(金) 13:25~15:15

【目的】・岐阜では学ぶことが難しいファッションや素材に関する最新の情報を取得する。

- ・文化服装学院の講師から直接専門的な指導を受けることで、ビジネスの視点から、商品開発のヒントや提案・宣伝方法までを学び、オリジナルファッションの考案に繋げる。

【講師】文化服装学院 非常勤講師 神山勝雄 氏(KDS神山デザイン事務所)

【対象】服飾デザイン科2年生

文化服装学院 神山勝雄氏を講師として、「プロの素材」に関する遠隔授業を行いました。

授業の内容は、衣服を構成する要素、デザイナーの役割と他の仕事との関連、素材の産地など基礎的な知識を身に付けることから始まり、日本発信の新素材の紹介では、本物のサンプルを準備していただき、実物を手にしながら学習を進めました。そして、オリジナルファブリックの可能性について、様々な加工方法を教えていただき、生徒は興味深く聞き入り、今後のオリジナルテキスタイルの開発に向けて可能性を広げることができました。

スクリーン中の先生から解説を受ける



特殊な加工や繊細な刺繍の生地に興味深々

<生徒の感想>

- ・テキスタイルは産地によって作りやすい素材があることを初めて知った。産地を理解しておくことは、服を作る上で重要なことであると思った。
- ・テキスタイルマテリアルセンターで学んだことと関連していて面白かった。特に和紙を使った服やバッグなどは、面白いが商品としてどうなのか疑問に思ったが、実際に触ってみると丈夫だと感じた。「意外性」が興味をかき立てるのだと思った。
- ・布は、加工することで新しさや意外性を演出でき、その加工も特別な機械がなくても身近にあるものでできると分かった。

③13th JAPAN YARN FAIR&総合展「THE 尾州」見学

【日 時】2月26日（金）11:30～16:00

- 【目 的】・世界有数の高級毛織産地である「尾州」の魅力について、各種展示や試作品から学ぶ。
- ・東海地区の繊維関係の企業（51社）の素材について、各社の特徴を生かした機能性、意匠性に富んだ素材を見学する。
 - ・学生のアイディアを取り入れた素材提案のコンテスト（翔工房）を見学し、今後のテキスタイルデザインの発想力を養う。

【研修先】一宮市総合体育館 DIADORA アリーナ

【対 象】服飾デザイン科2年生

研修内容と成果

ジャパン・テキスタイルコンテスト2015の入賞作品をはじめ、専門学校生と匠の技のコラボレーション「翔工房」の作品展示、尾州産地の生地を使用した中部ファッション専門学校のファッションショーなどの見学を行いました。研修後は、レポートを作成し、オリジナルテキスタイルの開発に向けて情報をまとめました。



様々な加工を施した生地のコンクール入賞作品を真剣な眼差しで見学



「翔工房」作品の説明を聴きながら、生地が発想方法を学ぶことができた。



手織り体験中

<生徒の感想>

- ・展示作品を見て、テキスタイルのネーミングの面白さにも気付いた。作品をPRするときは、その良さを伝えるためのキャッチフレーズやネーミングに工夫する必要があると感じた。
- ・テキスタイルコンテスト入賞作品は、肌触りや見た目だけではなく、その先の商品化、売れ行きまで見通して選ばれているのだと分かった。
- ・人の目を引く面白いテキスタイルを作るには、手間を惜しまず面倒なことをやる事が大切で、それができないと良いものは生まれなかったと感じた。ヤーンフェアで見たテキスタイルの工夫を参考にして、オリジナルテキスタイルの開発をしていきたいと思った。